

D部門論文委員会意見交換会 【HP公開資料】

2020年12月

電気学会産業応用部門
和文論文誌主査会
英文論文誌主査会

1. 編修長・英文編修長あいさつ・論文委員会の体制紹介

星和文誌編修長・横山英文誌編修長

2. 最近の和文論文誌委員会・英文論文誌委員会の活動について

3. 和文論文誌・英文論文誌の論文投稿・掲載状況について

4. 査読マニュアルについて

星和文誌編修長

5. 論文委員意見に対する回答

星和文誌編修長・横山英文誌編修長

前川 D1主査

和文論文誌編修長・英文論文誌編修長あいさつ 論文委員会の体制紹介

産業応用部門 和文論文誌 編修長

星 伸一 (東京理科大学)

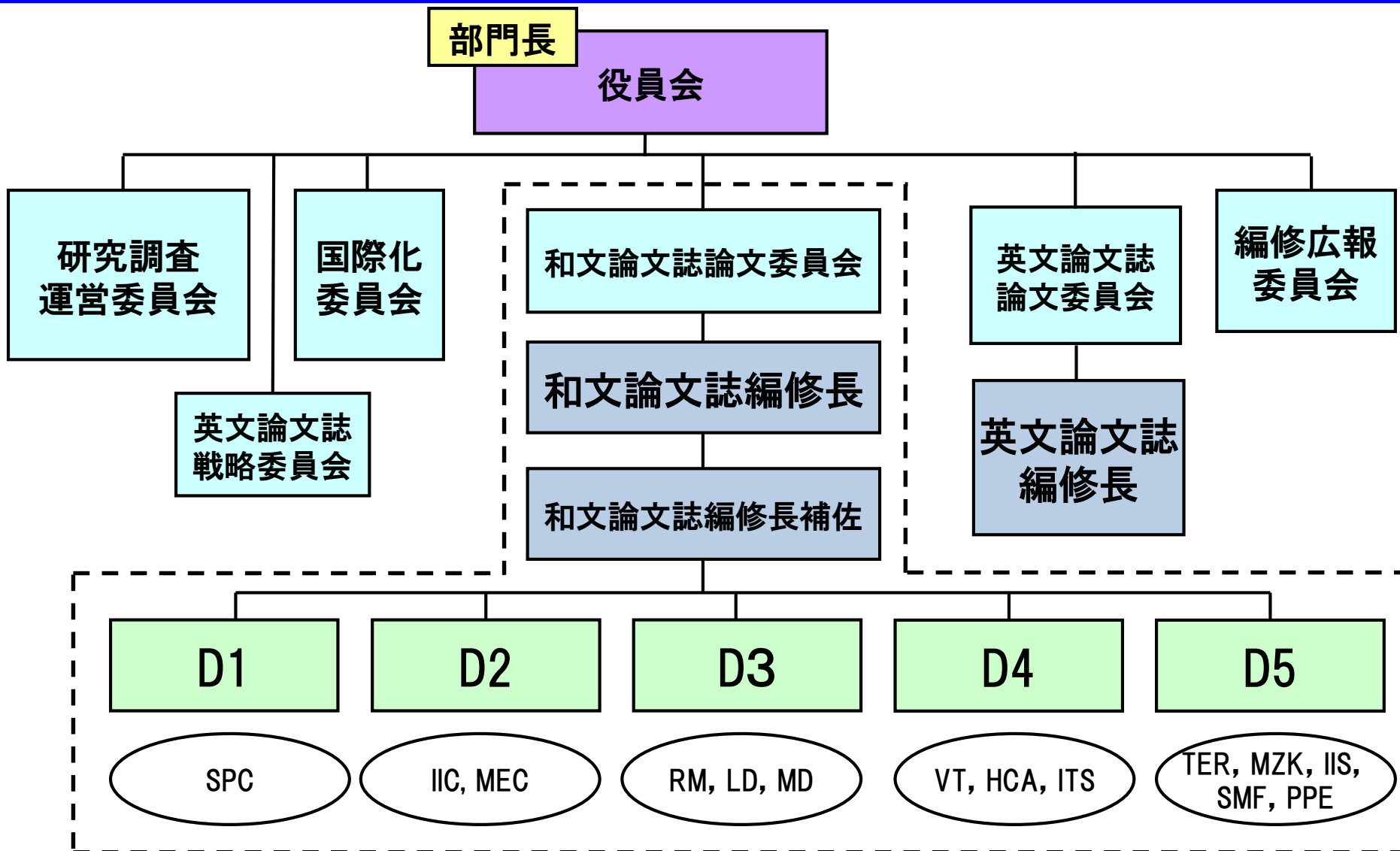
英文論文誌 編修長

横山 智紀 (東京電機大学)

論文委員の皆様方には、日頃、論文査読にご協力いただきましてありがとうございます。この場を借りて御礼申し上げます。

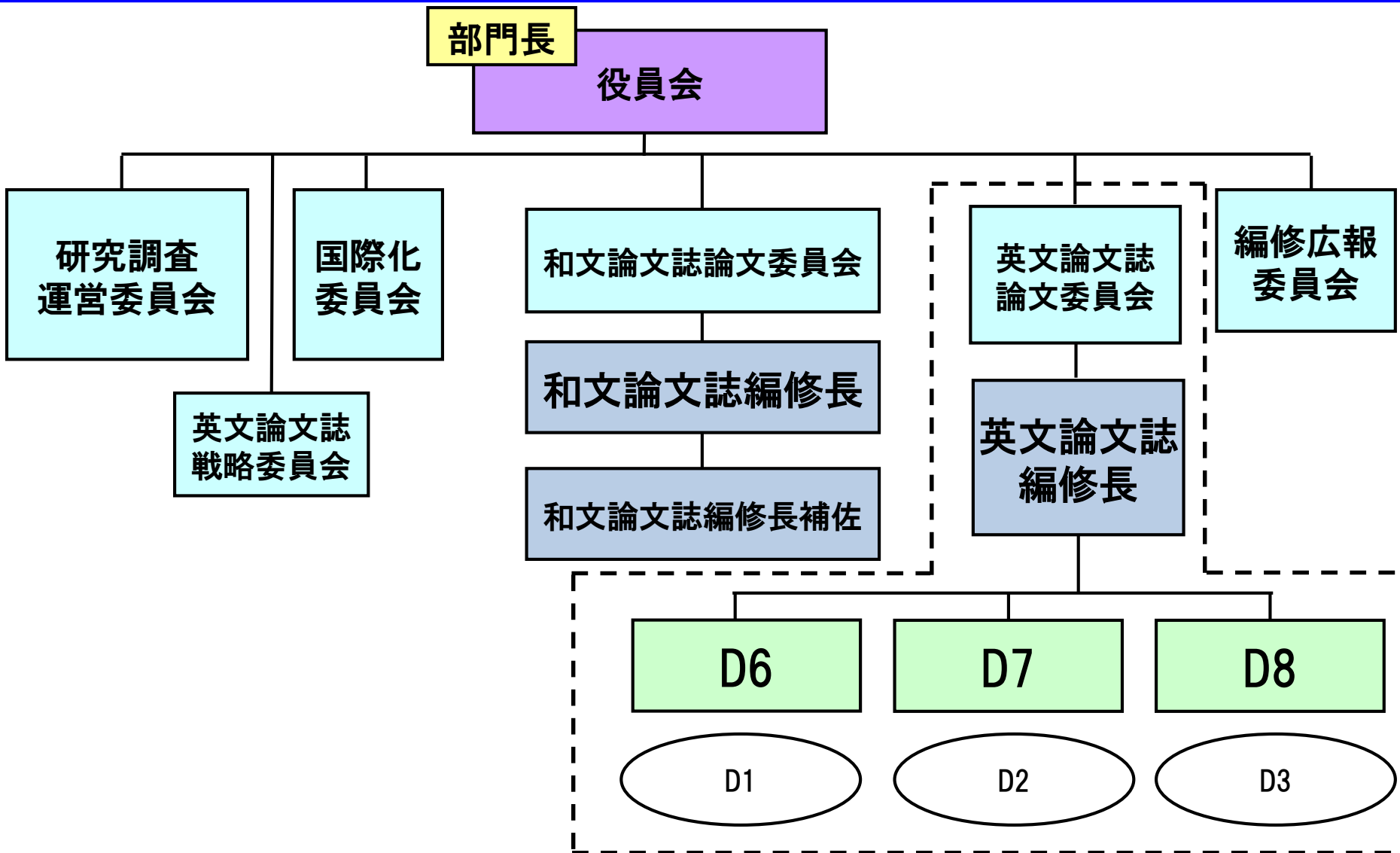
さて、例年、論文委員会の意見交換会を、産業応用部門大会の開催に合わせて実施させていただいております。本年は、残念ながら産業応用部門大会、本意見交換会も中止になってしまいました。そこで、今年度の論文誌の状況と、皆様方からお寄せいただいた意見に対する、D部門論文委員会主査会としての回答を、このような形で、資料として公開させていただくことにいたしました。

4 D部門における論文委員会(和文論文誌)

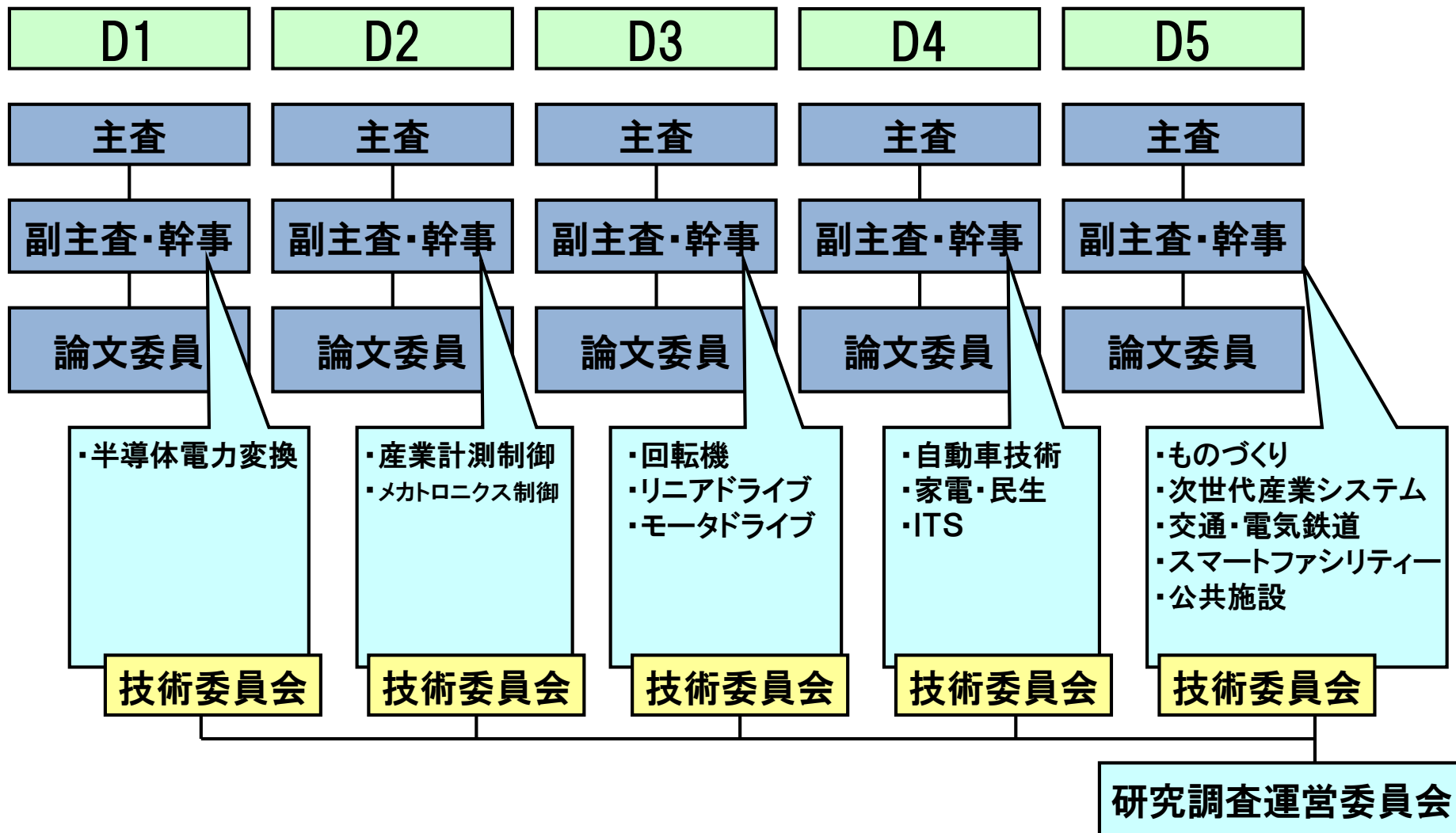


5

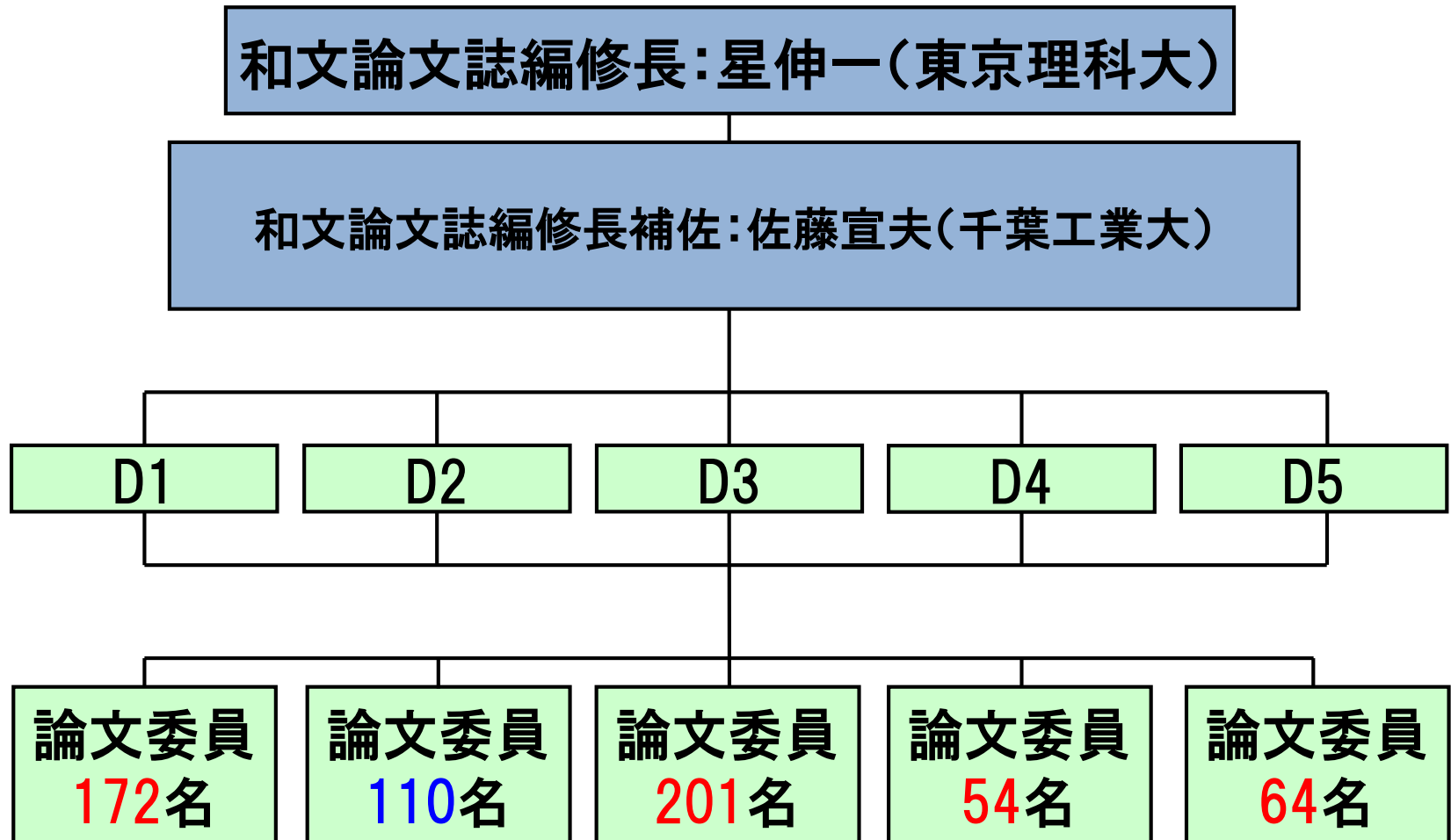
D部門における論文委員会(英文論文誌)



和文論文誌論文委員会の組織



和文論文誌論文委員会の構成



赤字は、昨年度に比べ論文委員数が大幅に増加したグループ

2020年度和文論文誌 論文委員会委員

D1	役職	氏名	所属
	主査	前川 佐理	成蹊大学
	副主査	磯部 高範	筑波大学
	幹事	藤井 幹介	富士電機(株)
	〃	三島 智和	神戸大学
	〃	児山 裕史	東芝インフラ システムズ(株)

D3	役職	氏名	所属
	主査	榎本 裕治	(株)日立製作所
	副主査	坂本 泰明	(公財)鉄道総合 技術研究所
	幹事	赤津 観	芝浦工業大学
	〃	鈴木 憲吏	東京都市大学
	〃	長谷川 勝	中部大学
	〃	中村 健二	東北大学
	〃	井上 征則	大阪府立大学
〃	木村 守	日立金属(株)	

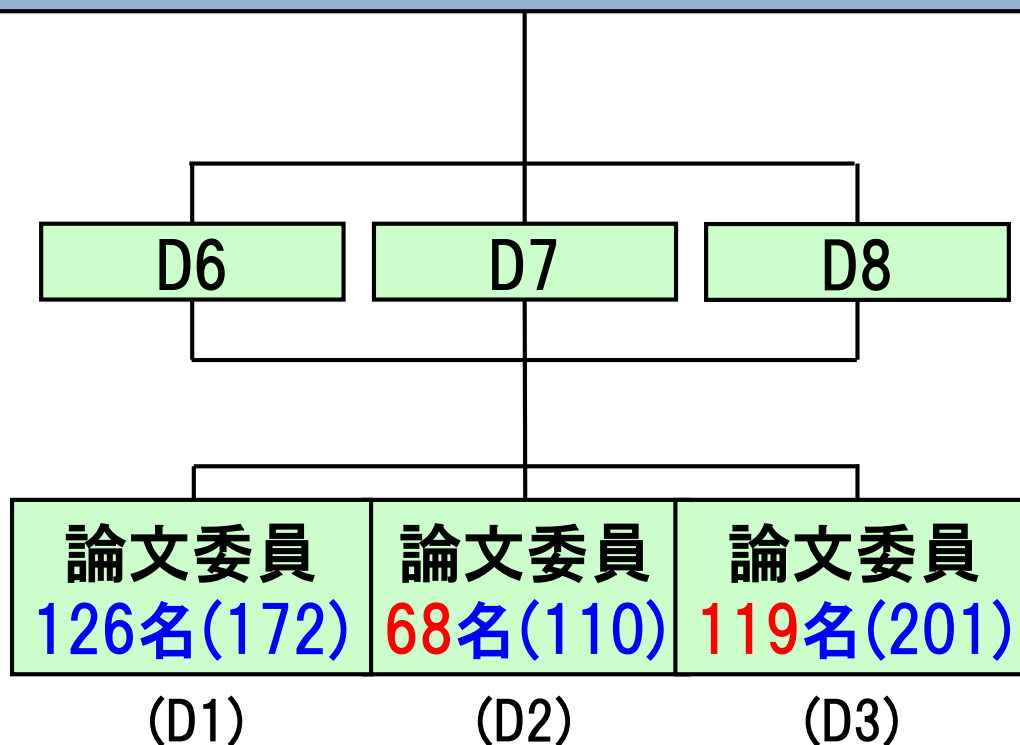
D2	役職	氏名	所属
	主査	五十嵐 洋	東京電機大学
	副主査	小田 尚樹	千歳科学技術大学
	幹事	関 健太	名古屋工業大学
	〃	元井 直樹	神戸大学
	〃	熱海 武憲	千葉工業大学

D4	役職	氏名	所属
	主査	高橋 聡	名古屋電機工業(株)
	副主査	古関 隆章	東京大学
	幹事	井上 馨	同志社大学
	〃	阿部 貴志	長崎大学
	〃	岩岡 浩一郎	パナソニックシステムソ リユーションズジャパン (株)

D5	役職	氏名	所属
	主査	高橋 聡	名古屋電機工業(株)
	副主査	古関 隆章	東京大学
	幹事	久保 亮吾	慶應義塾大学
	〃	小坂 大吾	職業能力開発 総合大
	〃	横川 勝也	東芝インフラ システムズ(株)
	〃	山田 親稔	沖縄工業 高等専門学校

英文論文誌論文委員会の構成

英文論文誌編修長: 横山 智紀 (東京電機大学)



英文論文誌論文委員会にも多くの方に委員としてご就任いただきました。

英文論文誌編修長 横山 智紀（東京電機大学）

Power Electronics and Its Applications Motion Control, Robotics, Sensing and their Applications

D6	役職	氏名	所属
	主査	芳賀仁	長岡技科大学
	副主査	和田圭二	東京都立大学
	幹事	末次正	福岡大学
	〃	浜崎 真一	長崎大学
	〃	名取賢二	千葉大学
	〃	小原秀嶺	横浜国立大学

D7	役職	氏名	所属
	主査	藤本 康孝	横浜国立大学
	副主査	石川 潤	東京電機大学
	幹事	残間 忠直	千葉大学
	〃	藤本 博志	東京大学
	〃	下野誠通	横浜国立大学

Electric Machine, Motor Drive and their Applications

D8	役職	氏名	所属
	主査	近藤圭一郎	早稲田大学
	副主査	小坂 卓	名古屋工業大
	幹事	山本 修	職業能力 開発総合大
	〃	鳥羽 章夫	富士電機
	〃	朝間 淳一	静岡大学

最近の和文論文誌委員会・英文論文誌委員会の 活動について

産業応用部門 和文論文誌 編修長

星 伸一 (東京理科大学)

英文論文誌 編修長

横山 智紀 (東京電機大学)

- **和文論文誌・英文論文誌共通**
論文委員会委員のデータベース登録情報が古くなってまいりましたので、論文委員継続の意思確認(グループの確認)、英文論文誌論文委員会への登録確認を実施しました。おかげさまで、査読者の増員を行うことができ、査読プロセスの迅速化が期待されます。
- **英文論文誌**
論文査読促進賞の新設などにより、査読期間の短縮に効果が表れてきています。

和文論文誌・英文論文誌の論文投稿・掲載状況

産業応用部門 和文論文誌 編修長

星 伸一 (東京理科大学)

英文論文誌 編修長

横山 智紀 (東京電機大学)

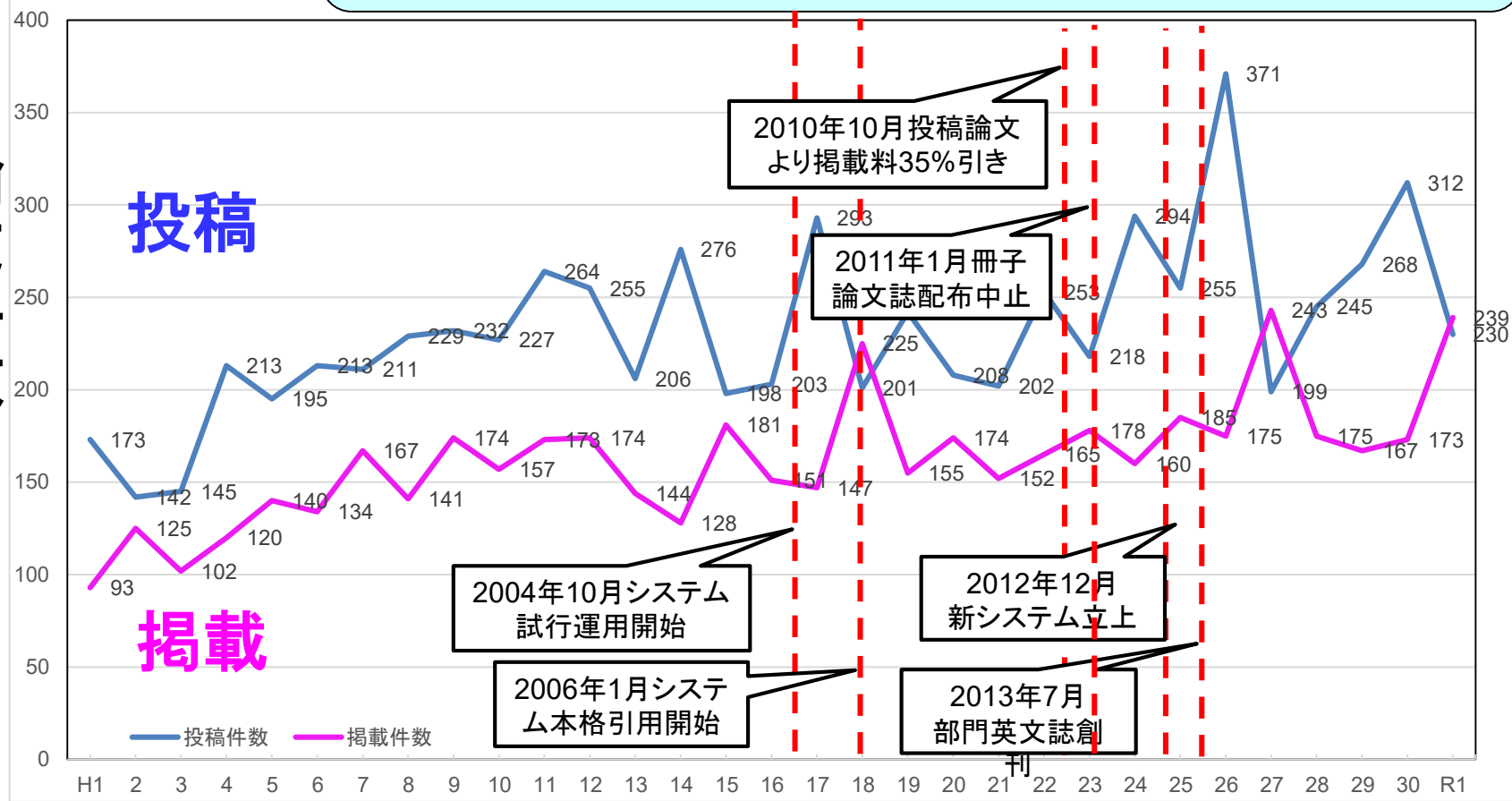
和文論文誌・英文論文誌の論文投稿・ 掲載状況について

- 掲載件数は、前年度の投稿数に依存して増減するため、今年度は増加しました。残念ながら、次年度は、減少する見込みです。
- 掲載判定までの期間については、和文誌は減少、英文誌は増加しています。ただし、英文誌は、論文査読促進賞の新設などにより、大幅に短縮化される傾向にあります。

D部門 論文投稿・掲載件数の推移

論文
件数

令和元年	平成30年
投稿 230 (うち英文論文誌D 89)	投稿312(うち英文論文誌D 151)
掲載 239 (うち英文論文誌D 119)	掲載173(うち英文論文誌D 61)



年

特集号の企画数

年	企画数	投稿数
2020(R02)年	3+2	
2019(R01)年	5+2	239
平成30年	4+3	312
平成29年	4+3	268
平成28年	3+1	245
平成27年	3+2	199
平成26年	9	371
平成25年	6	255
平成24年	5	294
平成23年	5	218

和文論文誌D(論文)

論文掲載判定までの所要月数

査読期間
[月]

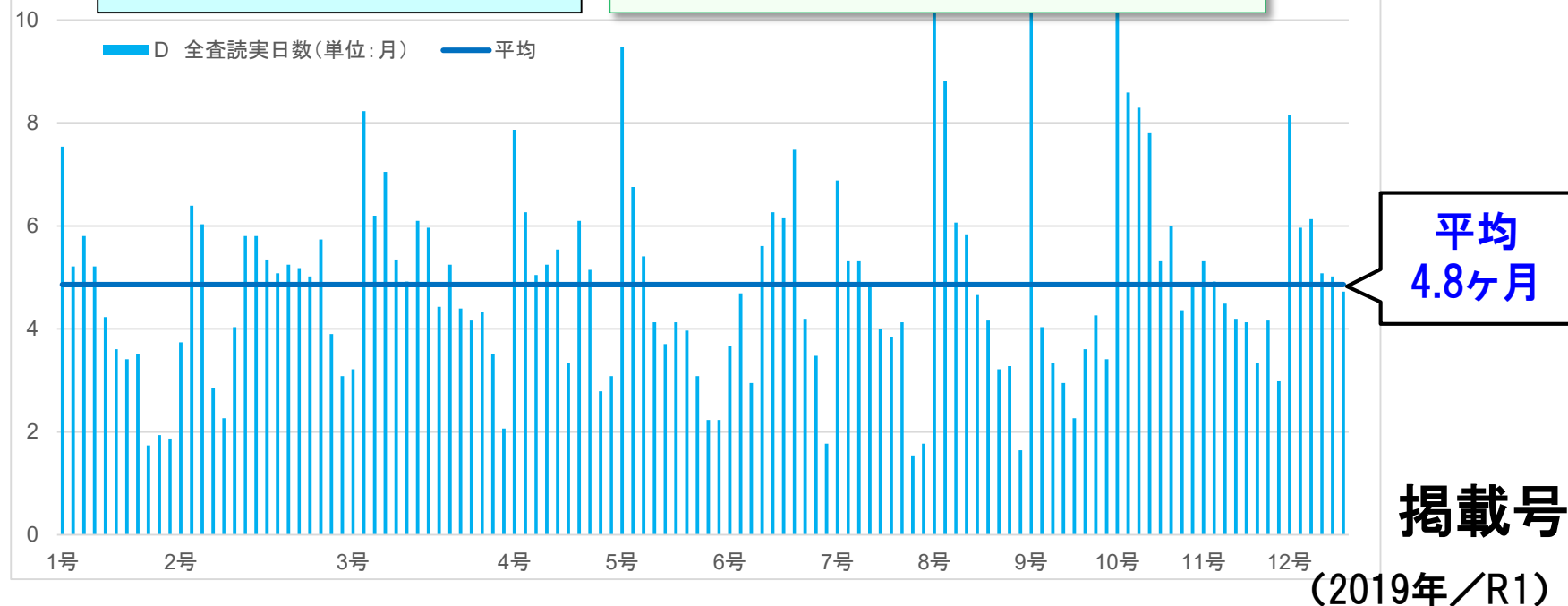
	査読	+照会
R01 【4.8】	2.8	+ 2.0
H30 【5.9】	3.6	+ 2.3
H29 【5.5】	3.3	+ 2.2
H28 【5.4】	3.3	+ 2.1
H27 【5.6】	3.2	+ 2.4

【ご参考】初回判定までの日数

・全Gr平均:51日

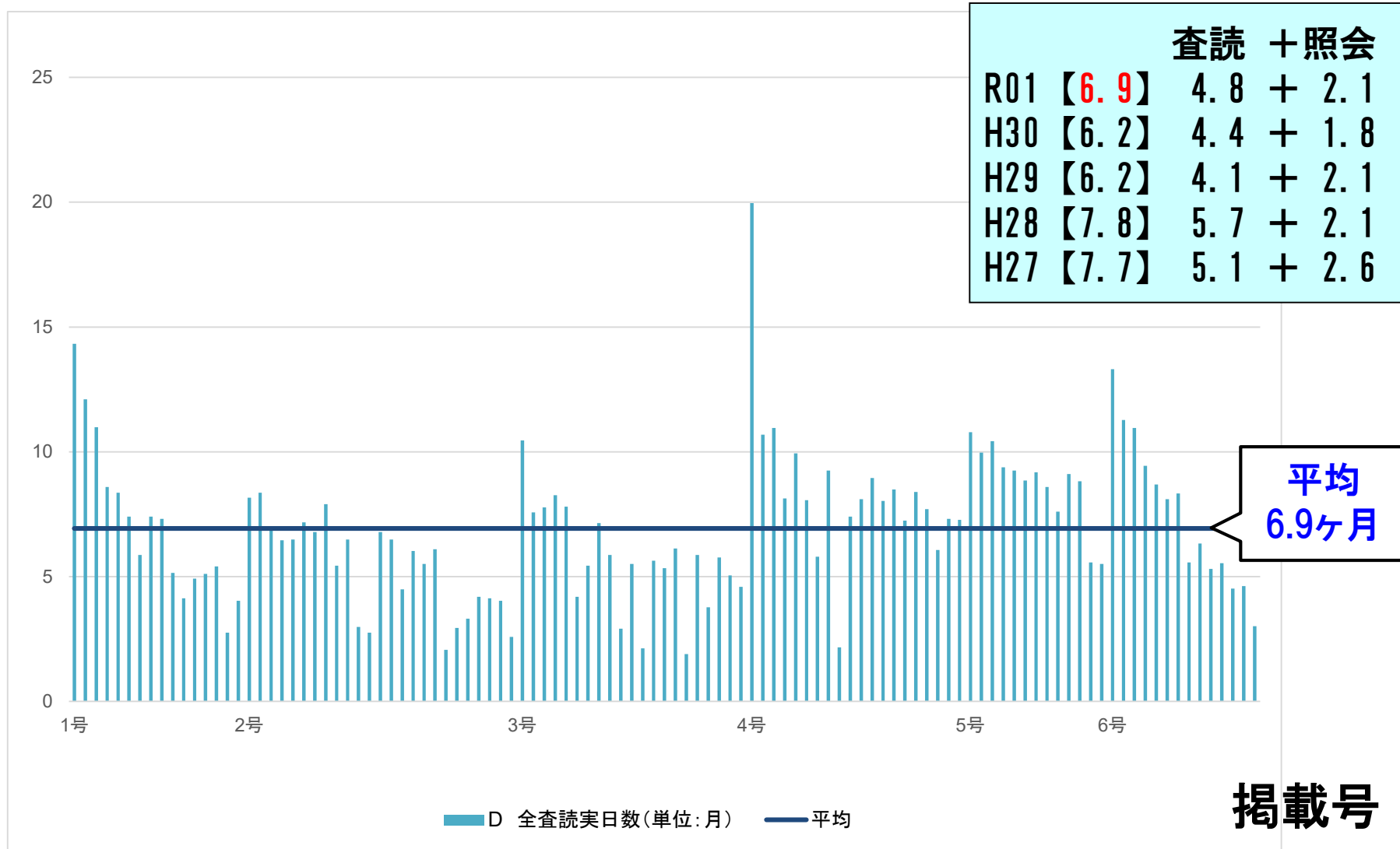
(D1:44日、D2:67日、D3:54日
D4:49日、D5:47日)

・目標30日につき、迅速な処理にご協力をお願いいたします。



英文論文誌D(論文) 論文掲載判定までの所要月数

査読期間
[月]

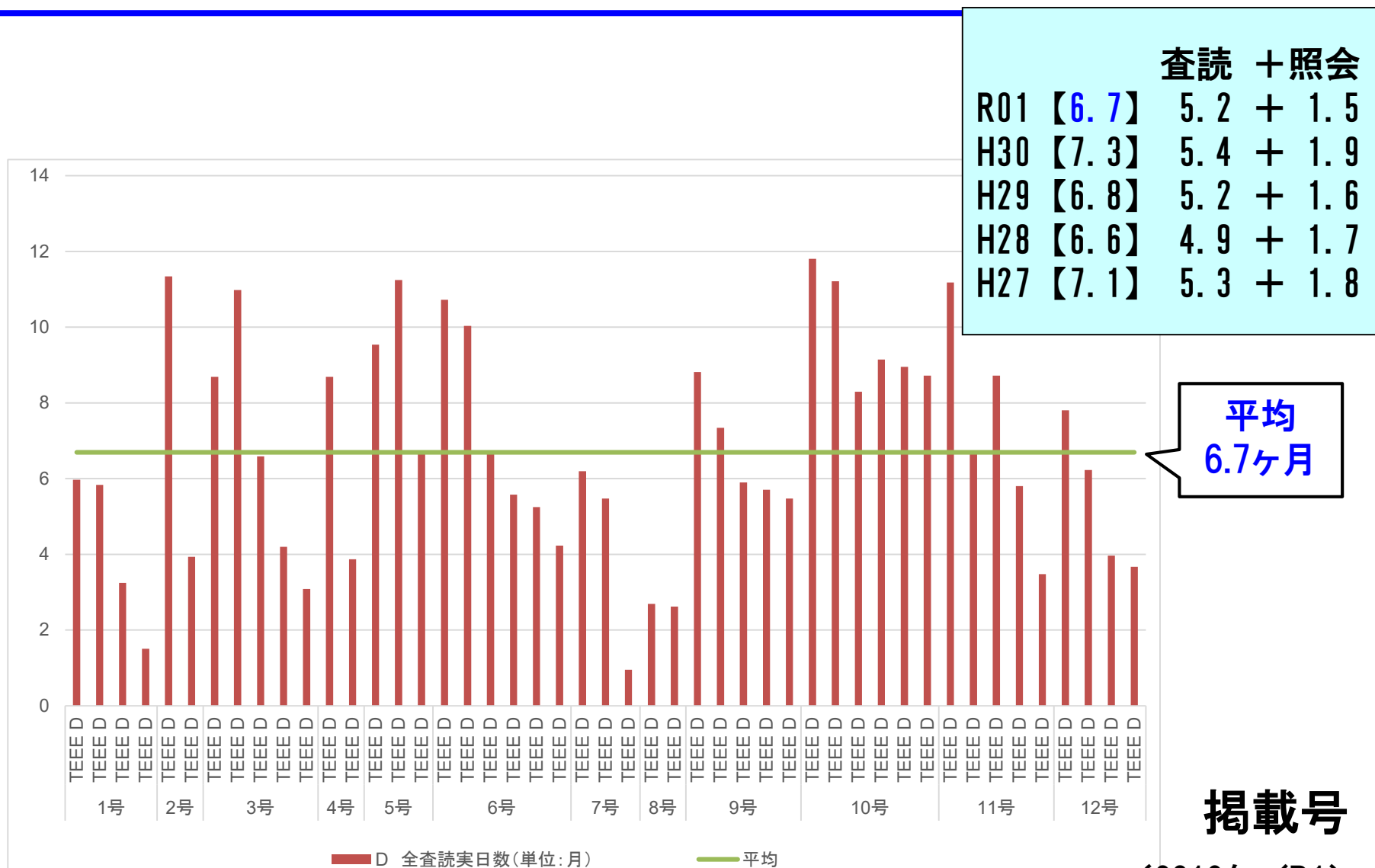


(2019年/R1)

共通英文論文誌(D部門投稿論文)

論文掲載判定までの所要月数

査読期間
[月]



掲載号

(2019年/R1)

産業応用部門 和文論文誌 編修長
星 伸一（東京理科大）

- 目的
 - 論文査読の基準を明確にすること。
 - 論文投稿者と査読者が論文に対して共通の認識を持つこと。
- 査読期間を短縮すること。
- 査読に対する不公平感をなくすこと。

23 部門誌論文・査読の基本的考え方

- 論文の内容に対する全責任は投稿者にある。
- 論文の査読は論文指導ではない。
- 論文の価値の評価をするのは査読者ではなく、読者である。
 - 投稿者は評価に耐えられる論文を作る。
 - 査読者は論文を早く、正しく処理する。
- 次の論文を出したくなるような査読をする。
 - 何でも掲載すればよいというのではない。
 - 論文誌のレベルが下がれば投稿する魅力もなくなる。

24 査読の要点(論文が備えるべき要件)

- 電気学術または技術に寄与するか
- 新規性, 創造性, 有用性のいずれか1つが認められるか
技術面だけでなく, 考え方, 応用上の問題点の指摘など, 広い観点からの新規性, 創造性, 有用性の判断がポイント
- 明白な誤り, 矛盾点がないか。論旨が一貫しているか。まえがきで指摘した問題点が, むすびで結論付けられているか
- 同一内容が発表されていないか

- 判定は4段階とし、以下の基準による。
 - ① エディトリアルな修正のみ：
掲載(A判定)
 - ② 修正内容が推奨項目(Suggested change)のみ：
条件付き掲載(照会后掲載)(B判定)
 - ③ 修正内容に必須項目(Mandatory change)を含む：
照会后判定(C判定)
 - ④ 論文の要件を具備していない：
返送(D判定)
- 照会后判定(C)は初回査読のみ選択可能

26 照会文の書き方(A, B, C判定)

- ① 必須修正項目(Mandatory change),
 - ② 推奨修正項目(Suggested change),
 - ③ エディトリアルな修正項目(Editorial change)
- に分け, 判定の根拠を明確に記載する。
- ①の必須項目のある論文は, 照会后判定(C)とする。
 - ②の推奨項目と③の項目のみの論文は照会后掲載(B)とする。
 - ③の項目のみの論文は掲載(A)とする。

27 1回目の査読でA判定をつける場合の 判定の際の注意

- 電気学術または技術に寄与していることを記載する。
- 新規性, 創造性, 有用性(研究開発レターでは創意性, 新規性)のどれが認められるかを(複数でも良い), 明確に記載する。

- 理由を具体的に、明確に記載する。
- 客観的な証拠に欠けていると判断された論文については修正の上、新たな論文としての投稿を勧める。
- 新規性、創造性、有用性のいずれも有していないことを明確に説明する。

(例)

- 既に発表されている論文**との違い、優位性が無い、あるいは、同一内容である。
- 論文の目的・主張・効果などが、論文記載のシミュレーションや実験データでは確認できず、新規性、創造性、有用性のどれも認められない。
- 理論式の展開の**部分に誤りがある。

- 掲載決定論文の内容の変更は、原則として誤字、脱字、フォントの不一致など、editorialな修正を除いて一切認められない。掲載決定後、最終原稿で意図的に内容を追加したことが明らかになった場合には、掲載の決定を取り消す場合がある。
- 査読マニュアルの内容は、常に改善してゆきます。なお査読マニュアルは産業応用部門論文委員会のページ
<http://www2.iee.or.jp/~ias/d-ron/sadoku/>からリンクできます。

参考：部門ホームページ(<http://www.iee.jp/ias/>)

和文誌編修長 星 伸一

(東京理科大学)

英文誌編修長 横山 智紀

(東京電機大学)

D1主査

前川 佐理

(成蹊大学)

事前のご意見とご質問について

- 査読について: 1件
- その他: 1件

合計2件, ご意見・ご質問を頂戴しました。
ありがとうございました。

R01: 5件, H30:10件, H29:4件, H28:4件, H27:10件
H26:11件, H25年:12件, H24年:11件, H23年:3件

Q. 査読のやり方に関する資料でB判定の基準が異なるのは是正した方がいいと思っています。

例えば、

■電気学会投稿論文等の査読結果報告要領 資料2

判定B:軽微な問題点はあるが投稿者に照会のうえ一部修正すれば掲載可(条件付掲載)。

※上記(1)(2)を満たした上で、上記(3)重点評価項目のなかで、「創造性」「新規性」「有用性」のうち、1つ以上「4:やや高い」または「5:高い」の評価であれば、B以上の判定をつけて下さい。

■論文等査読の申し合わせ(部門共通・規程 1-1-2)

判定B:条件付掲載. 軽微な問題点はあるが投稿者に照会のうえ一部修正すれば掲載可

のように、恐らく電気学会共通の資料では、B判定の修正が必須条件として記載されているのに対し、D部門の以下の資料では必須となっていません。

■産業応用部門誌論文査読マニュアル

2) 修正内容が推奨項目(Suggested change)のみのもの:照会后掲載(B判定)

殆どの方は、B判定のコメントは必須だと認識しているのではないのでしょうか。

査読結果の文面を見てもそのようなものが多いです。

D部門の判定方針が電気学会全体とは異なるのであれば、明確に記載して周知しない限り、

問題になっていた例の論文のようなことや、査読者への差し戻しが今後も発生し続けると思います。

幹事側の負担だけの話かもしれませんが、差し戻しは査読者側にも負担をかけることになるのではないのでしょうか。

【回答】 査読について (1)

- 査読マニュアルの内容の周知については、これまで意見交換会実施時に周知しているほか、今年度、新規に論文委員に就任された方に対して、動画にて説明を実施しております。
- 幹事の皆様につきましては、査読依頼時に、査読マニュアルを確認するように伝達をお願いいたします。
- D部門のB判定運用方針につきましては、査読マニュアルに記載の通りです。
- 査読マニュアルは定期的に見直すことになっており、主査会にて検討の上、必要に応じて改定してまいります。

Q. 昨今の論文査読で気になるのは「学術論文としての形態を成していない論文」に出くわすことが多いという事です。この点についてですが論文投稿数を増やす為に投稿規定を緩めたことが原因だと思うが、悪い結果となっていると考えます。

この説明に入る前に、こういう根拠を述べた上でこの説明に入らなければ、というような論文内容の論理性に欠ける論文に出会った時、「そういう指摘をすることは「論文指導」にあたるのでやめて下さい、あくまでも新規性があるか否かで判定して、その論文の品格や内容、書き方はの責任は論文著者にあるとお考え下さい」との助言を頂いた事が過去に何回かありましたので、指摘しない事にしています。

しかし、論理性に欠ける論文、社内実験報告的な構成の論文、或いは指導教官の指導を受けていないような(指導教官は名前だけつけていて内容を精査していないと推測されます)やった通りの順番で書かれた論文、これらは電気学会産業応用部門の論文のレベルと品格を下げるだけの効果しかないと思慮する次第です。

という事もあって、最近はやっぼどのが無い限り論文誌にはほとんど目を通していません。

現役を去った者としては現役世代の方々の方針に敢えて反対はしませんが、論文査読指針の見直しがなされればいいな、と思っはいます。

- 貴重なコメントありがとうございました。
- 部門として、論文執筆に関する講習会の企画や、技術文章執筆に関する良書の推薦などの提示等により、論文誌掲載論文のレベルと品格の維持・向上に努めてまいりたいと考えております。講習会講師の自薦他薦、参考書の推薦等、皆様にご協力いただけますと幸いです。
- 査読マニュアルにつきましては、定期的に見直すことになっておりますので、主査会内で改善できるように検討いたします。

和文論文誌・英文論文誌ともに

魅力のある論文誌となりますよう

編修長・主査・副主査・幹事一同努めてまいります

論文委員の皆様方も引き続きご協力をお願いします。